

タスマニアの高校生活について

香川県立小豆島高等学校
普通科 2年 岡本奈那子

私は今回、「タスマニアの高校生活について学ぶこと」を主なテーマとしてタスマニア派遣事業に参加させていただきました。

私が感じた、日本の高校生との相違点は3つあります。

1つ目は、休み時間の使い方についてです。授業終了後、ほとんどの生徒は共有の団欒スペースで友人との時間を楽しそうに過ごしていました。それに対し、日本の高校生は勉強したり先生に質問しに行ったりすることが多いと思います。タスマニアの高校生は疑問に思ったことは授業中にその場で質問するため、休み時間に勉強している生徒はほとんどいませんでした。又、学校のいたるところにベンチがあり、生徒同士でコミュニケーションが取りやすい環境が整えられていました。個人的に、このような休み時間の活用方法はとても良いと思います。私は授業中に発言することをためらいがちですが、私より年下の学生が臆せず質問や発言をしているのを見て、これからはその場で質問し、休み時間をもっと有効活用したいと思いました。

2つ目は、部活動についてです。日本の高校生のほとんどが放課後、部活動に励んでいるのに対して、タスマニアの高校生は敷地内に運動施設や整ったテニスコートがあるのにも関わらず、4限終了後、直ぐに帰路につきます。又、スポーツがしたい生徒は帰宅後、個人でスポーツクラブに通っている様でした。

3つ目は、生徒の年齢層と性格についてです。日本の高校には満16歳～満18歳までの学生が通っているのに対し、タスマニアの高校には満12歳～満16歳までの学生が通っています。年齢層の厚さで言うと、日本の2倍です。これだけ層が厚いのに関わらず、休み時間は年齢関係なく冗談を言い合い、仲睦まじく遊んでいました。更に、生徒たちはとてもフレンドリーで、勝手に分からず私が困っていると必ず誰かが助けてくれました。

他にも、たくさん相違点を発見しましたが、私にとってはどれも初めての発見で、驚きの連続でした。日本の学校より校風が自由なためこのような違いが生まれるのかなと思いました。授業や学校生活でたくさん友達ができると、日本について質問されることがよくありました。様々な質問に答えているうちに、私自身も日本の文化や特徴に興味を持つ様になりました。これからは地元の祭りや日本の伝統行事を大切に、積極的に参加したいと思います。日本の素晴らしさについても再発見できた充実した研修でした。



▲7月29日 絵手紙体験の手助けをしている様子